Vol.22　定番のダブルストップ・フレーズを弾いてみる　～その 2～

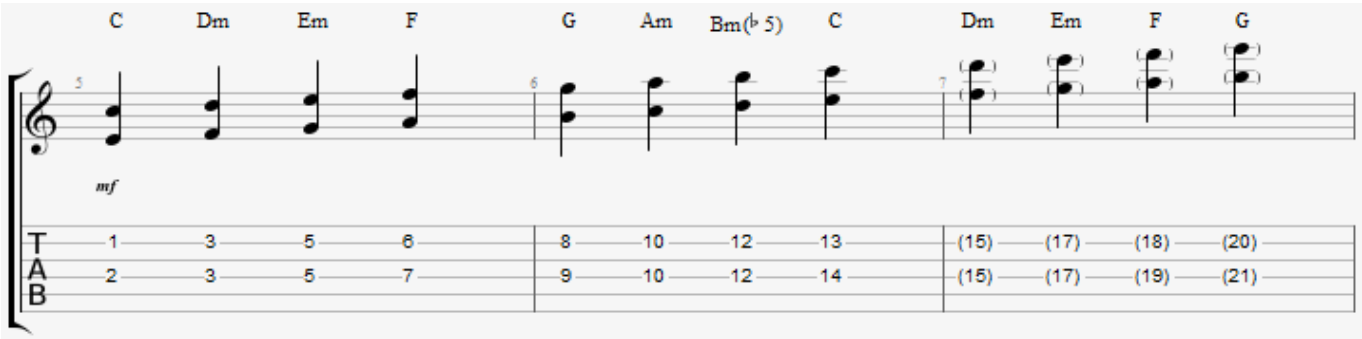
では、vol22、始めていきましょう。

前回に引き続き、ダブルストップのフレーズを見ていきます。

今回は、2、4 弦を使った弾き方ですね。やっている事(弾くフォーム)自体は前と同じなので、そこまで苦労することはないでしょう。

それでは譜例は以下になります。

譜例 1



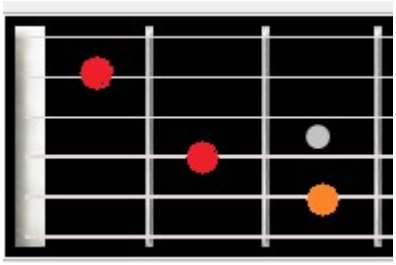
オクターブ上がった後のポジションは、上に行けば行くほど弾きにくくなるので、便宜的にカッコを付けています。

譜面に載っているコードネームは、2 弦の音をトニックに見た場合のものですね。

前回の譜例もそうですが、この手のフレーズは、どの音をルートに設定するのか？によって、大元のコードとしては何を想定しているのかが変わります。

例えば、譜例の 1 拍目、2 弦 1 フレット C 音と 4 弦 2 フレット E 音は、C 音をルートに見ると C 音＝root、E 音＝M3rd ですね。

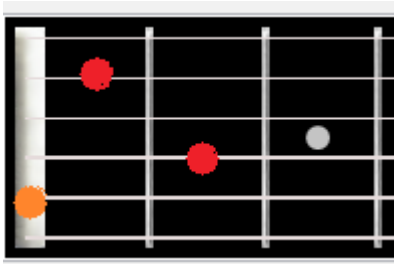
例、5 弦 3 フレットの C 音をルートに見る



Copyright (C) 2016 shunichi onuma All Rights Reserved

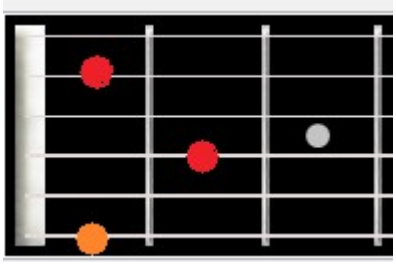
ですがこれを、5 弦解放の A 音をルートに見ると、C 音＝m3rd、E 音＝P5th になります。

※A 音ルート

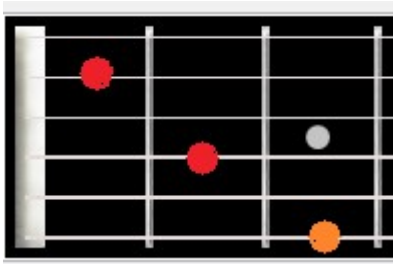


他にも 6 弦 1 フレットの F 音をルートに見ると、C 音＝P5th、E 音＝M7th。6 弦 3 フレットの G 音をルートに見ると、C 音＝P4th、E 音＝M6th です。

※F 音ルート



※G 音ルート



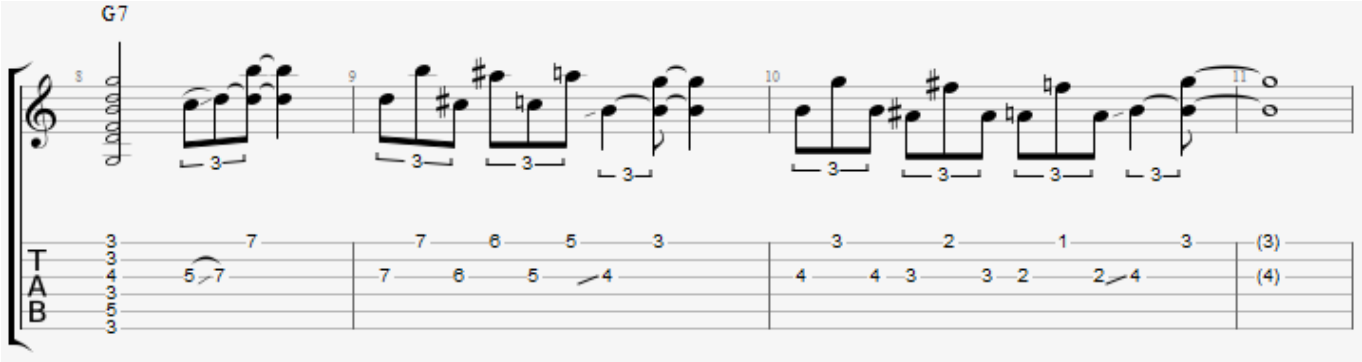
こう考えると、譜例では 1 つのポジションに 1 つのコードネームを付けていましたが、結局、どのコードから見ても、大体良い感じの音に収まる事になります。(※アボイドは避けますが)

となると、色々なコード上で譜例のダブルストップの音を動かす、と言うアイディアに繋がってきますよね。

よくあるパターンとしては、例えば G7 があったとして、ここ 2 回のテキストで学んだ様なダブルストップの位置を動かすものでは、こんな感じのフレーズがあります。

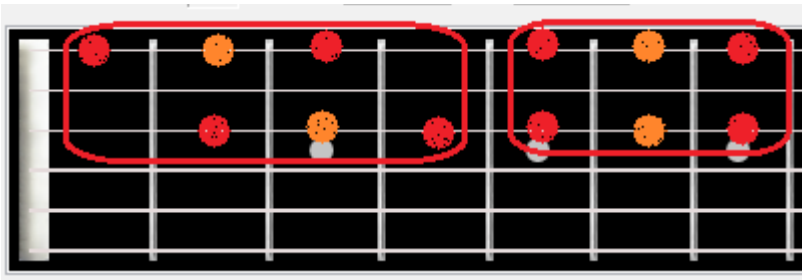
譜例 2

Copyright (C) 2016 shunichi onuma All Rights Reserved



一応、譜割りを付けていますが、ラフに弾くことも多いパターンです。

他にも、クロマチック・アプローチを入れたりもしてみましたが、全く同じ形のポジションに挟まれた間のフレットを、平行に動いて鳴らす事も可能です。



(※クロマチック・アプローチなどの調性外の音を使う場合は、全体の響きの邪魔をしないかどうか？に気を付けましょう)

この様に、工夫次第で沢山のフレーズが作れるパターンなので、色々と実験してみて下さい。

では、今回は以上になります。

ありがとうございました。

大沼

Copyright (C) 2016 shunichi onuma All Rights Reserved